

サツマイモを多くの人へ ～地域ブランド『小野芋好』を確立させるために～

栽培専攻 サツマイモ班

I. 目的

昨年の研究の結果から、郡上でも安納の栽培が可能であることを知った。また、栽培するうえで、『貯蔵方法の研究・栽培面積の拡大・販売方法の見直し』という課題が残されていた。その課題を解決するために研究をスタートさせた。

II. 方法

課題を改善するために『①収穫時期を早める・②栽培面積の拡大・③地域ブランドの確立・④販売に向けた工夫・⑤経営収支』について取り組んだ。また、種子島の気候に近づけるために葉面散布を実施して生育の違いを調査した。

葉面散布とは、水に溶かした肥料を霧状に散布して、葉から栄養を吸収させる方法である。

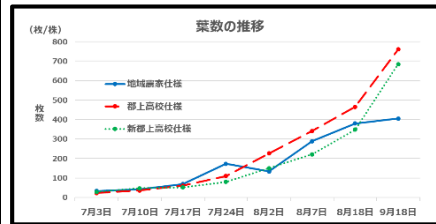
実験区は郡上地域の人の栽培方法と郡上高校の栽培方法による比較と、郡上高校の栽培方法に葉面散布を行う調査区を設定し、葉面散布の比較を行った(図1)。



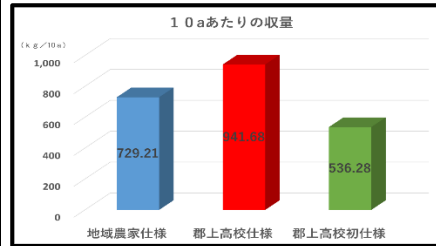
(図1: 実験区の設定)

III. 結果

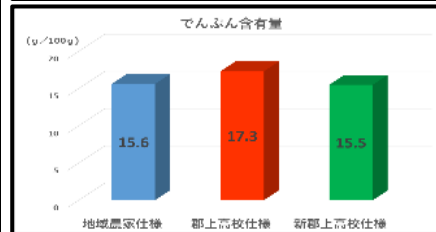
- ・葉数の推移では、新郡上高校仕様、地域農家仕様、郡上高校仕様の順だった(図2)。
- ・10aあたりの収量では、郡上高校仕様、地域農家仕様、新郡上高校仕様という順だった(図3)。
- ・でんぷん含有量は、郡上高校仕様、地域農家仕様、新郡上高校仕様の順だった(図4)。
- ・栽培面積の拡大については、地域の方が保有している土地(耕作放棄地)をお借りすることで拡大することができた。
- ・ブランドとして発信することで、知名度を上げることができたため、商標申請を行うことができた。また、申請に対する拒絶通知では、意見書を提出することができた。しかし、まだ商標登録ができていない。
- ・焼き芋器を製作することができた。また、オリジナル製法で焼き上げることで、付加価値をつけることができた。



(図2: 葉数の推移)



(図3: 10aあたりの収量)



(図4: でんぷん含有量)

IV. 考察

- ・葉数の推移から葉面散布をしたことにより、光合成が促進され、葉数が増加したと考えられる。
- ・10aあたりの収量から、葉面散布は、光合成を促進させ葉数を増加させる効果が見られたが、芋の収量を増やす効果は低いと考えられる。
- ・でんぷん含有量に差がないことから、光合成を促進できたが、そこで作られたブドウ糖はサツマイモに蓄えられず、成長するための栄養として使われていたと考えられる。このことからつるぼけが発生したと考えられる。
- ・郡上オリジナルのブランドにすることやオリジナル製法で焼き上げることにより校外へのアピールにつながり、郡上の新たな特産物につながるのではないかと考えている。
- ・マルチありの郡上高校仕様は約80%の収益UPが見込めるため、農家さんに提案することができると考えられる。

V. 今後の課題

- ・新規圃場の土壌改善
- ・葉面散布の調節または施肥設計の見直し
- ・貯蔵方法の研究
- ・販売ルート of 拡大